

[ライブ・サーティー]

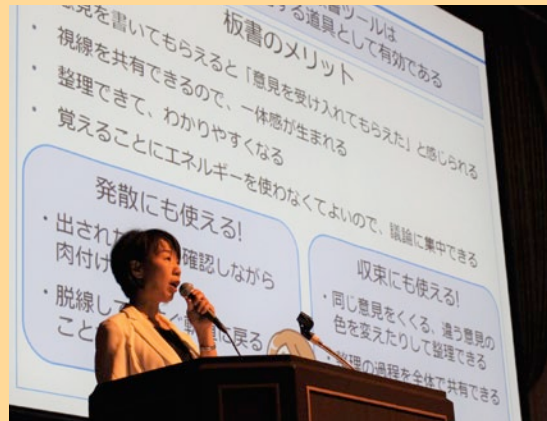
Live30

<http://www.omichikai.or.jp>

VOL.

224

2017年
9月-10月



CLOSE UP

課題解決スキルを持つ現場リーダーを育て、更なる改革に取り組む

第67回日本病院学会でシンポジウムを開催

OMICHI ACADEMY

第67回日本病院学会

OMICHI SCRAMBLE

小児病棟で虫歯予防啓発活動を行いました

七夕会を開催しました

第19回グリーンライフ夏祭り

INFORMATION

森之宮フェスティバルに参加しました

森之宮病院 回復期リハビリテーション病棟の基本方針を改定しました



最優秀賞
「Live30」
第23回(2017年)において
最も優秀であったと評価し、
日本一を授けられます。
日本病院協会

課題解決スキルを持つ現場リーダーを育て、更なる改革に取り組む

第67回日本病院学会でシンポジウムを開催



6月5日に日経BP社より社会医療
法人大道会の著書『医療・介護現場の課
題解決型リーダー育成メソッド』が出
版されました。その出版に合わせて、7
月20日・21日に神戸で行われた「第67回
日本病院学会」で、「組織の課題解決ス
キルを高める仕組み」と題したシンポ
ジウムを開催しました。

今回のシンポジウムでは、宮井副理
事長と法人内の課題解決の講師である
トレーナー等11名が、ソフトバンクロ
ボティクスの感情認識ヒューマノイド
ロボット「Pepper」との会話や、
会議風景の演劇、ミニ講義等を通して、
分かりやすく楽しみながら現場に取り
入れやすいように、課題解決型管理職
の育成ノウハウを紹介しました。

シンポジウム 〜組織の課題解決スキルを 高める仕組み〜

はじめに、宮井副理事長と「Pepper
er」が、課題解決ワークショップの導
入背景を説明しました。大道会のめざ
す姿を実現するには、管理職の課題解
決スキルを強化することが大切です。
そのためには内部講師を育て、組織を
丸ごと鍛え続けられる体制にする必要
があり、そうした体制づくりに取り組
んだ7年の活動を紹介しました。

課題解決スキルを取り入れる前の
「あかん会議」と、取り入れた後の「すつ
きり会議」をトレーナー等による白熱

した演劇で再現したほか、医療現場で
よく見られる「議して決せず」が起こら
ない会議のコツの解説や、会場の参加
者にアンケートを実施する等、参加者
に身近なテーマを扱ったことで、会場
は和やかな雰囲気になりました。



Pepperと軽快に会話を交わす宮井副理事長

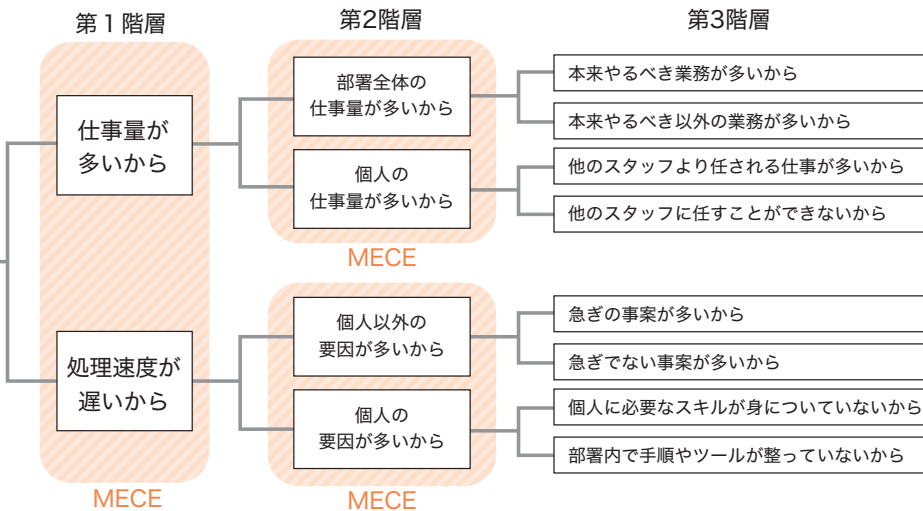
課題解決スキル強化ワーキングの詳細
では、トレーナー養成前の準備や養
成プログラムの全体像、トレーナーに
よるワークショップのプログラム等、
大道会が「課題解決型」組織への転換を
めざして、トレーニングの仕組みを整
備してきた過程を説明しました。

また、多くの施設が抱えている残業
問題に対し、課題解決のフレームを
使って考えていくミニ講義も行われま
した。モレなくダブリなく問題の原因
や解決策を分類するMECE(ミー
シー)やロジックツリーを使い、課題で
ある残業問題の原因・分析・解決策の絞

■課題分析

ロジックツリーを使い、残業時間の原因を決め打ちせず全て洗い出します

部下の労働時間が長いのはなぜか



今回のシンポジウムでは、大道会が取り組んできた課題解決スキル強化のノウハウを分かりやすく伝えたいと考え、準備してきました。地域包括ケアの実現には、異なる職種や施設、部門が協働連携することが不可欠で、この課題解決スキルは連携時の共通フレーム・共通言語として、有効に機能します。

今年5月より、新たな次世代リーダーを育成するため、第2期トレーナー養成を開始しています。課題解決スキルを持つ現場リーダーを育て、法人のビジョンや戦略の具体化、業務改

今後の展開



演技を交えながらトレーナー自ら、残業時間が多いという課題に対して、ロジックツリーを作成

り込みを行う等、課題解決の一連の流れを演技を交えながら分かりやすく解説していきましました。実際に課題解決スキルを使用して取り組んだ実例も紹介され、出席者は熱心に耳を傾けていました。

『医療・介護現場の課題解決型リーダー育成メソッド』には、大道会で2010年から開始した「課題解決ワークショップ」の取り組みを題材に、研修で使われている様々な論理的思考ツールの解説やそれらのツールを用いた課題解決の実例の紹介等、大道会流の課題解決のエッセンスが盛り込まれています。CD-ROM付きの約300ページの豊富な情報量で、価格1万7280円(税込)でご購入頂けます。

購入方法等の詳細は、日経BP書店のホームページをご覧ください。多くの医療・介護関係者の皆様に本書をご活用頂ければ幸いです。

書籍の紹介



課題解決ワークショップに携わった職員と関係者の記念写真

善に取り組むことで、今後、更なる組織強化に向けて取り組んでいきます。

■主な内容

プロローグ ……「ワークライフバランス改善への挑戦」～看護部リーダーたちの意識変革～

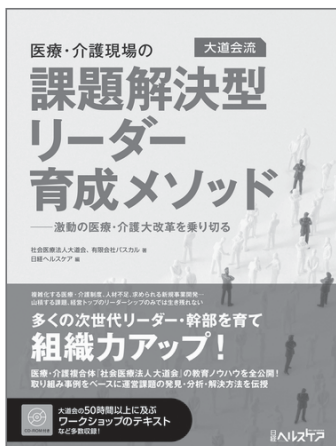
第1章 ……「気づき編」～なぜリーダーの育成が必要なのか～ 「組織改革か？ 戦略立案か？ 求められる変革」、「リーダー育成の焦点をどこの組織・人材に当てる？」等

第2章 ……「現状把握編」～リーダーの素質とは何か～ 「組織の強み・弱みを調査・把握する方法とは」、「調査結果をどう分析する？」、「分析結果を踏まえた次なるプログラムをどう設定？」

第3章 ……「課題解決編」～課題解決の能力をどう身につけるか～ 「課題発見の能力をどう育成し、どのように身につける？」、「課題分析の能力をどう育成し、どのように身につける？」、「解決策立案の能力をどう育成し、どのように身につける？」等

第4章 ……「発展編」～課題解決トレーナーの育成に取り組む～ 「トレーナー養成プロジェクトをどのように進める？」、「課題解決トレーナーをどのように育成する？」

第5章 ……「実践編」～ここまで発展した大道会の組織力～ 「法人の将来を見据えた『未来創造プロジェクト』の発進」、「5年、10年先を念頭に置いた人事制度の見直しに着手」等



第67回日本病院学会

平成29年7月20日・21日、神戸国際会議場及び神戸ポートピアホテルにて、第67回日本病院学会が開催されました。この学会は、医療に携わる全ての職種に向けて開かれていきます。「医療人育成ルネサンス」をテーマに、多職種が参加する特徴を生かして、人材育成を中心とした医療界の様々な課題について活発なディスカッションが行われました。大道会からはこれまで取り組んできた課題解決スキル強化のノウハウについてシンポジウムを行いました。

一般演題は2日間にわたり740演題もの発表が行われ、大道会からは22題を発表しました。今回は大道会の職員が行った一般演題発表について一部をご紹介します。



学会開催の様子

第67回 日本病院学会 大道会演題者 演題一覧 (32名)

氏名	所属(申込時点)	演題
シンポジウム	正壽佐和子(副部長) 森之宮病院 看護部(看護師)	組織の課題解決スキルを高める仕組み ～課題解決手法の共通言語化とマトリクストレーニングシステムの構築～
	福井真理子(副部長) 森之宮病院 看護部(看護師)	
	柴田まゆみ(副部長) 森之宮病院 看護部(看護師)	
	舘川靖子(科長) 森之宮病院 看護部(看護師)	
	椎名英貴(部長) 森之宮病院 リハビリテーション部(言語聴覚士)	
	砂古口雅子(科長) 森之宮病院 リハビリテーション部(作業療法士)	
	貝塚鉄平(課長) 帝国ホテルクリニック 企画広報部(事務)	
	下里忠光(主任) 森之宮病院 事務部(事務)	
	杉浦美保(課長) 森之宮病院 診療部 地域医療連携室(事務)	
	藤井由記代(課長) 森之宮病院 診療部 医療社会事業課(MSW)	
上野恒夫(課長) 本部 管理部(事務)		
一般演題	西村はるよ(科長) 森之宮病院 看護部(看護師)	回復期リハビリテーション病棟に入職した新人看護師の看護技術到達と提供された技術教育の様相
	久保和樹 森之宮病院 看護部(看護師)	末梢動脈疾患を有する患者に対してパンフレットを用いた啓発活動前後での足観察に対する意識調査
	砂古口雅子(科長) 森之宮病院 リハビリテーション部(作業療法士)	森之宮病院回復期リハビリテーション病棟退院後の実態アンケート調査について
	本山絵美(主任) 森之宮病院 リハビリテーション部(作業療法士)	病院の一般病棟における高齢患者に対する専従・専任セラピストの取り組み
	高松賢司 森之宮病院 リハビリテーション部(理学療法士)	リハビリモデルルームの活用で自宅退院へのイメージは深まるか～アンケートにより振り返る～
	徳山千尋 森之宮病院 画像診断部(診療放射線技師)	直前の水分補給による造影CT時の嘔気発生率について
	原田恵津子 森之宮病院 画像診断部(臨床検査技師)	当院における皮膚灌流圧測定(SPP)検査の現状と体位の違いによる数値変動
	菅貴子 森之宮病院 診療技術部(管理栄養士)	回復期リハ病棟における入院患者のAlb、BMIの変化と運動FIMの関係性について
	倉橋現太 森之宮病院 画像診断部(臨床工学技士)	当院における術前・術後の血液透析管理について
	畑中有希(科長) 森之宮病院 歯科診療部(歯科衛生士)	当院における全身麻酔下歯科治療についての調査
	藤井由記代(課長) 森之宮病院 診療部 医療社会事業課(MSW)	地域包括ケアシステムの構築に向けた森之宮病院の取り組み
	湯川智子(科長) ボバース記念病院 看護部(看護師)	早期の初回チームカンファレンス実施による効果と課題
	金城雅子 ボバース記念病院 看護部(看護師)	患者の望む在宅療養生活に寄り添うために～施設で生活する患者の事例を通して～
	坂本朋浩(主任) ボバース記念病院 リハビリテーション部(理学療法士)	ボバース記念病院での通所リハビリテーションの取り組みについて～グループリハビリの導入～
	藤田良樹(主任) ボバース記念病院 リハビリテーション部(理学療法士)	目標設定等支援管理シート導入に伴うセラピスト教育への取り組み
	櫛引翔太 ボバース記念病院 リハビリテーション部(理学療法士)	地域に向けた介護予防教室～体力測定から個人に合った運動指導の提案～
	末宗梓(主任) ボバース記念病院 リハビリテーション部(作業療法士)	FIM評価精度向上のための当院回復期病棟での取り組み
	小野純(主任) ボバース記念病院 リハビリテーション部(作業療法士)	通所リハビリで目標達成し、終了を目指した取り組み
	安田圭吾 森之宮クリニック 診療技術部(診療放射線技師)	Excelを使用した故障時対応リストの作成とその効果
	中島弘貴 グリーンライフ 事務サービス部(MSW)	グリーンライフ入退所支援の課題～法人内病院との比較から～
	澤口靖 在宅事業部 訪問看護ステーション東成おおみち(理学療法士)	在宅にて注入後に胃食道逆流を呈した症例～誤嚥性肺炎と褥瘡予防の為のギャッチアップ角度の設定～
	片上侑香 本部 管理部(事務)	森之宮病院10周年記念イベントオープンホスピタルについて



森之宮病院看護部科長
西村はるよ

回復期リハビリテーション病棟に入職した新人看護師の看護技術到達と提供された技術教育の様相

回りハ病棟配属の新人看護師における、1年間の看護技術の到達度とその技術研修の実施状況より、今後の教育課題を検討した。経験する機会の少ない看護技術は、集合研修を企画する段階から「再集合研修」「集合研修から継続するOJT」等を考える必要がある。



森之宮病院看護部6階西病棟
久保和樹

末梢動脈疾患を有する患者に対してパンフレットを用いた啓発活動前後での足観察に対する意識調査

末梢動脈疾患患者にパンフレット指導し、足病変に対する意識変化を調査。足病変になる可能性と壊死し切断になる可能性を説明。足観察が必要と答えた人は増加し、意識の向上が図れた。対象の危機感が高まり、意識の向上に繋がったと考える。



森之宮病院リハビリテーション部
作業療法科主任
本山絵美

病院の一般病棟における高齢患者に対する専従・専任セラピストの取り組み

A DL維持向上等体制加算に伴い、

一般病棟に専従・専任セラピストを5名配置。予防的介入を目的に、①環境設定、②集団活動、③家族・地域スタッフへの情報提供を行った結果、入院直後の転倒件数の減少、日常生活機能の維持・向上が図られた。



森之宮病院リハビリテーション部
理学療法科
高松賢司

リハビリモデルルームの活用で自宅退院へのイメージは深まるかアンケートにより振り返る

リハビリモデルルームの活用は退院支援に関して有効か、実際にモデルルームを利用された受診者に対してアンケート調査を試みた。今回の検証で、モデルルームの活用は退院支援を促すことができる可能性があることが示唆された。



森之宮病院画像診断部
画像診断科
徳山千尋

直前の水分補給による造影CT時の嘔気発生率について

検査直前の飲水が嘔気嘔吐発生率に影響するかどうかを目的として、ウォーターサーバー設置前後で検証した。当院ではウォーターサーバー設置前後で嘔気嘔吐発生率に差異は見られなかった。今後の課題として飲水量、飲水時間によってどう変化するか検討する。



森之宮病院画像診断部
画像診断科
原田恵津子

当院における皮膚灌流圧測定(SPP)検査の現状と体位の違いによる数値変動

SPP検査時に仰臥位での検査が困難な場合があり、仰臥位以外での体位での検査結果の影響及び変動と健常者の体位変動による影響を検討した。健常者以外での影響は今後の検討課題であるが、参考値となり得ることが分かった。



森之宮病院診療技術部
栄養サーピスト
菅貴子

回復期リハビリ病棟における入院患者のA1b、BMIの変化と運動FIMの関係性について

当院の回復期リハ病棟で、栄養状態とFIMの関係性を後ろ向きに調査した。入院時低栄養・低体重であった患者が、A1b・体重の改善によってより高いFIM利得に繋がることが示唆された。入院時早期に多職種と協働で栄養介入を行う必要がある。



森之宮病院画像診断部
臨床工学科
倉橋現太

当院における術前・術後の血液透析管理について

入院中の透析患者の様々なリスク

に対して、データ解析し、バイタルの変動を最小限にするための施行条件を考えた。術後の透析は原則行わないことや、医師の指示をより細かく出してルール化する等、分析して初めて分かったこともあり、スキルアップに繋がった。



森之宮病院歯科診療部科長
畑中有希

当院における全身麻酔下歯科治療についての調査

歯科診療部(ポバース・森之宮)では2001年から2016年までに障がい者を対象として全身麻酔下歯科治療を総計3168症例行ってきた。このシステムの安全性を高めるために実態調査を行った結果、重症な合併症はなく安全に行われていることが分かった。



森之宮病院診療部
医療社会事業課課長
藤井由記代

地域包括ケアシステムの構築に向けた森之宮病院の取り組み

2015年に森之宮地域でまちづくり協定を締結した。協定締結後の地域活動をソーシャルワークの視点で振り返り、向こう10年間に顕在化する地域ニーズを踏まえ、今後の課題・活動方針を報告した。



ボバース記念病院看護部
2階科長
湯川 智子

早期の初回チームカンファレンス実施による効果と課題

回りハ病棟においてアウトカム評価が導入された。条件達成に向け、カンファレンス開始時期を早め、在院日数やFIMの変化を検証した。入院早期から目標達成に向けた課題共有が可能となり、今後も予後予測とゴール設定に基づいたカンファレンスを実施できるよう取り組む。



ボバース記念病院看護部
在宅ケア科
金城 雅子

**患者の望む在宅療養生活に寄り添うために
〜施設で生活する患者の事例を通して〜**

施設入居中の一人の患者と訪問看護師へのインタビュの結果、双方が理想とする療養生活に大きな差異がみられた。患者の望む生活を看護師が憶測する事は困難であり、相手に問いかけ向き合う姿勢が重要であると認識した。



ボバース記念病院リハビリテーション部理学療法科主任
坂本 朋浩

**ボバース記念病院での通所リハビリテーションの取り組みについて
〜グループリハビリの導入〜**

今回、「ボバース記念病院での通所リハビリテーションの取り組みについて」という題で、2016年11月から通所リハビリで取り組んできたグループリハビリの発表をした。とても刺激的で有意義な学会となった。



ボバース記念病院リハビリテーション部理学療法科主任
藤田 良樹

目標設定等支援管理シート導入に伴うセラピスト教育への取り組み

「目標設定等支援管理シート導入に伴うセラピスト教育」を発表した。教育をOJTとOFFOJTの観点から考え、対話に基づいた教育の重要性を再実感することができた。この経験を生かし、多角的な教育を考えていきたい。



ボバース記念病院リハビリテーション部作業療法科主任
末宗 祥

**FIM評価精度向上のための
当院回復期病棟での取り組み**

FIM評価精度向上のため、初日や毎月のADL評価を看護師とセラピストで行い、病棟とリハ部のマニュアルを統一するという取り組みの成果を発表した。他施設のFIM評価に対する取り組みについても知ることができ、有意義な時間となった。



ボバース記念病院リハビリテーション部作業療法科主任
小野 純

通所リハビリで目標達成し、終了を目指した取り組み

「通所リハビリで目標達成し、終了を目指した取り組み」を発表した。改めて利用者の目標達成のために、居宅訪問とサービスマン担当者会議、活社会参加を重視した計画立案の重要性を再認識することができた。



森之宮クリニック診療技術部
安田 圭吾

Excelを使用した故障時対応リストの作成とその効果

エラーが出た際、すぐに復旧するものか迅速に判断する必要がある。エラー発生時、Excelによる対応を試みたところ故障の程度がすぐに判断できた。エラーの内容はエラーメッセージの検索で概ね把握でき、その後の受検者の進行調整に役立った。



グリーンライフ事務サービス部
地域課支援相談員
中島 弘貴

**グリーンライフ入退所支援の課題
〜法人内病院との比較から〜**

在宅復帰支援について、森之宮病院とボバース記念病院の退院患者と、グリーンライフの入退所を比較

し、グリーンライフの課題を検討した。結果、身寄りが無い等、社会背景に課題のある方の受け入れが不十分だと分かり、今後は支援の強化に取り組んでいきたい。



訪問看護ステーション東成おおみち
澤口 靖

在宅にて注入後に胃食道逆流を呈した症例〜誤嚥性肺炎と褥瘡予防のためのギャッチアップ角度の設定〜

脳卒中後遺症者に対し、注入後の胃食道逆流と褥瘡予防の為、ギャッチアップ30度を自宅で確実にに行えるよう関わった結果、それらの改善が得られた。退院支援・在宅支援における多職種による包括的な関わりと情報共有の必要性を再認識した。



本部管理部門人事課
片上 侑香

森之宮病院10周年記念イベント「オーブンホスピタル」について

開設10周年に、地域に当院を知ってもらうためのオーブンホスピタルを開催した。当日は297名の来場者がイベントを通して当院への理解を深めた。また、口コミによる集客効果が最も高かった。今後は院内外を巻き込んだ広報活動を促進したい。

森之宮病院

小児病棟で虫歯予防啓発活動を行いました

6月26日、3階小児病棟で森之宮病院歯科診療部の歯科衛生士と歯科衛生士養成校の臨床実習生による虫歯予防の劇を行いました。

妖怪ウォッチの人気キャラクター達と一緒に虫歯伯爵や虫歯菌を歯ブラシで退治し、歯磨きの大切さや、虫歯について学べる内容となっています。劇の最後には、虫歯予防のた

めの約束を皆で読み上げ、子ども達も元気いっぱい返事で答えてくれました。

今後も今回の活動のように、子ども達が楽しく歯ブラシや虫歯について学べるような活動を行い、虫歯予防啓発活動に努めたいと思います。

(森之宮病院歯科診療部 村川 智美)



虫歯予防のお約束を子ども達としました

ボバース
記念病院

七夕会を開催しました

7月19日、ボバース記念病院で入院患者さん向けの七夕会(夏の夕べマジックショー)を開催しました。吉本興業所属のジョニー広瀬さんと、そのお弟子さんである北野大地さんをお招きしました。お二人はトランプやハンカチ、炎等を利用した様々なマジックを披露して下さり、観客を巻き込んだショー

やトリックで皆さんを魅了していただきました。特に最前列で観ていた子ども達は、目を輝かせてお二人の手元を不思議そうに見つめていました。これらの多彩なトリックやテクニクに加え、芸人ならではの巧みな話術により、会場内は絶え間なく笑顔や歓声に包まれました。



観客の目の前でマジックを披露するジョニー広瀬さん

(ボバース記念病院リハビリテーション部理学療法科 石田一洋)

グリーン
ライブ

第19回 グリーンライブ夏祭り

7月19日、グリーンライブで夏祭りが開催されました。今年で19回目を迎えることができた夏祭りは、グリーンライブで一番大きな行事です。

当日は紅白幕や提灯を設置し、焼き鳥やフランクフルト等、沢山の屋台を用意し、グリーンライブは祭り一色でした。その他には、ボランティアで来て頂いた東中浜女性部の方々が盆踊りも披露して下さい、たくさんの方が盆踊りに参加されました。盆踊りは、夏祭りまでに東中浜女性部の皆様によるご指導のもと、練習を重ねたかいてもあり、ご利用者ともども楽しく踊ることができました。

また、多種多様の屋台を準備し、地域の方々にも大変好評でした。たくさんの方の笑顔や笑い声を聞くことができ、本当にうれしく思います。

今回の夏祭りに携わったスタッフ、ボランティアの皆様には、無事に夏祭りが終えられたことを感謝いたします。来年度も素晴らしい夏祭りとなるよう企画させていただきます。

(グリーンライブ療養サービス部療養2科 村上剛)



大勢の方が盆踊りに参加されました

■ 森之宮フェスティバルに参加しました

5月28日、好天の下、森之宮小学校で開催された森之宮フェスティバルに参加しました。地域住民が児童の育成を支援するイベントであり、当院は、城東区・森之宮地域活動協議会と一緒にスマートエイジングシティブースを担当しました。外来看護師(安田科員・古上科員)による看護体験コーナーでは、AEDや血圧測定のほか、聴診器で互いの身体の音を聞き合う体験を通し、多くの親子を笑顔にしていました。リハ部の原山科員がグラウンドで披露した大道芸は、風船アートを手にした大勢の子ども達に取り囲まれ大盛況でした。裏方として、事務(下里主任・坂田課員)・施設(和

田主任・花畑課員)や医療相談室のスタッフが参加し、地域の皆さんから喜んで頂くことができ、地域活動に従事できた喜びを感じました。(森之宮病院診療部医療社会事業課課長 藤井由記代)



■ 森之宮病院 回復期リハビリテーション病棟の基本方針を改定しました

森之宮病院の「理念」、「基本方針」の改定に伴い、森之宮病院回復期リハビリテーション病棟の「基本方針」を改定しました。今後も地域包括ケアシ

ステムの構築を見据えて、在宅復帰を目指す良質なリハビリテーションを提供できる体制づくりを進めていきます。

■ 森之宮病院における回復期リハビリテーション病棟の基本方針

1. 受診される方やご家族の権利と希望を尊重します。
2. 医師、看護・介護職、セラピスト、ソーシャルワーカー等の医療チームが一体となって、リハビリテーション・ケアを提供します。
3. 客観的な評価に基づいた個別性の高いリハプログラムを提供します。
4. 退院後の生活につながる治療・ケアを行い、生活機能の向上をめざします。
5. 安全なリハビリテーション・ケア提供のため、適切な全身管理や転倒予防等に努めます。
6. 退院後の生活を支援するため、地域の医療、介護、福祉サービスと連携し地域包括ケアシステムを構築します。
7. 各職種が高い専門技術を提供できるよう研鑽します。

2017年3月27日改訂

■ ご寄付・ご寄贈を頂きました

岡山山梅様(城東区)、大森勉様(城東区)、井内廣樹様(桜井市)よりご寄付・ご寄贈を頂きました。ありがとうございます。有意義に活用させていただきます。

■ 編集後記

猛暑の夏も終わり、過ごしやすい季節になりました。秋は美味しいだけでなく、夏の疲労回復や冬に備えて、免疫力アップ等が期待できる栄養豊富な旬の食材があふれています。美味しく食べて心身ともに健康に過ごしたいと思います。(森之宮病院事務部庶務課 葛本尚美)

Live30 [ライブ・サーティ]
2017年9-10月号
vol.224 (隔月発行)

編集発行人/社会医療法人大道会
〒536-0023 大阪市城東区東中浜1-5-1
TEL.06(6962)9621
FAX.06(6963)2233

● 本法人の経営理念

1. 社会から信頼される病院・施設づくり
2. 安定した経営基盤の確立
3. 職員の福祉向上と人材育成

● 職員行動モットー

親切丁寧に(受診者・お客様・ご利用者)
待たさない/よく説明する/
連携する

■ 社会医療法人大道会

社会医療法人大道会本部

☎06(6962)9621

森之宮病院

☎06(6969)0111

ボバース記念病院

☎06(6962)3131

森之宮クリニック(PET 画像診断センター)

☎06(6981)9600

帝国ホテルクリニック(人間ドック)

☎06(6881)4000

大道クリニック(人工透析)

☎06(6961)5151

介護老人保健施設グリーンライフ

☎06(6965)0666

訪問看護ステーションおおみち

☎06(6967)1123

訪問看護ステーション東成おおみち

☎06(6977)8680

ケアプランセンター城東おおみち

☎06(6964)5285

ケアプランセンター東成おおみち

☎06(4259)5311

東中浜ケアプランセンター

☎06(6962)3777

レンタルケアおおみち

☎06(6967)6250

■ 社会福祉法人山水学園

特別養護老人ホームサンローズオオサカ

☎06(6974)7388

東成山水学園(保育園)

☎06(6974)7377